

2018 年度後期期末試験

1  $A = \begin{pmatrix} -x+2 & 0 & -2x+2 \\ 0 & 1 & 0 \\ x-1 & 0 & 2x-1 \end{pmatrix}$  とする ( $x \neq 1$  とする). このとき, 次の問に答えよ.

\* (1) は答えのみ書くこと. (2) は理由も書くこと.

(1)  $A$  の固有多項式を因数分解した形で書け. (10 点)

(2)  $A$  が対角化可能であるかどうかを調べよ. (10 点)

2  $Q(\mathbf{x}) = 2x_1^2 + 2x_2^2 + 2x_3^2 + 2\alpha x_1x_2 + 2\alpha x_1x_3 + 2\alpha x_2x_3 = {}^t\mathbf{x}A\mathbf{x}$  とする ( $\mathbf{x} = {}^t(x_1, x_2, x_3)$ ). このとき, 次の問に答えよ.

\* (1) と (2) と (4) は答えのみ書くこと. (3) は途中計算も書くこと.

(1)  $A$  を求めよ. (10 点)

(2)  $A$  の固有多項式を因数分解した形で書け. (10 点)

(3)  $A$  を直交行列  $P$  により対角化せよ. また, 行列  $P$  を求めよ. (20 点)

(4)  $\mathbf{x} = P\mathbf{y}$  とする ( $\mathbf{y} = {}^t(y_1, y_2, y_3)$ ). このとき, 標準系  $Q(P\mathbf{y})$  を求めよ. (10 点)

3 2 次正方行列  $A$  に対して  $A^2 - 4A + 3E = O$  が成り立つとする (ただし,  $A \notin \{E, 3E\}$  とする). このとき, 次の問に答えよ.

\* (1) と (2) は証明を書くこと. (3) は答えのみ書くこと.

(1)  $\lambda$  を  $A$  の固有値とすると,  $\lambda \in \{1, 3\}$  であることを示せ. (10 点)

(2) 1 と 3 が共に  $A$  の固有値であることを示せ. (10 点)

(3)  $A$  が対称行列のとき, 2 次形式  $F(\mathbf{x}) = {}^t\mathbf{x}A\mathbf{x}$  ( $\mathbf{x} = {}^t(x_1, x_2)$ ) の標準系を求めよ. (10 点)

$$\boxed{1} \quad (1) \quad |\lambda E - A| = (\lambda - 1)^2(\lambda - \alpha)$$

(2)  $\text{rank}(1E - A) = 1$  より,  $(1E - A)\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の解の自由度は 2.

よって, 重複度と解の自由度が等しいので,  $A$  は対角化可能.

$$\boxed{2} \quad (1) \quad A = \begin{pmatrix} 2 & \alpha & \alpha \\ \alpha & 2 & \alpha \\ \alpha & \alpha & 2 \end{pmatrix}$$

$$(2) \quad |\lambda E - A| = (\lambda - 2 - 2\alpha)(\lambda - 2 + \alpha)^2$$

(3) **Case 1.**  $\alpha \neq 0$  の場合

$$P = \begin{pmatrix} 1/\sqrt{3} & -1/\sqrt{2} & 1/\sqrt{6} \\ 1/\sqrt{3} & 0 & -2/\sqrt{6} \\ 1/\sqrt{3} & 1/\sqrt{2} & 1/\sqrt{6} \end{pmatrix}, \quad {}^tPAP = \begin{pmatrix} 2 + 2\alpha & 0 & 0 \\ 0 & 2 - \alpha & 0 \\ 0 & 0 & 2 - \alpha \end{pmatrix}$$

**Case 2.**  $\alpha = 0$  の場合

$$P = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad {}^tPAP = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

(4) **Case 1.**  $\alpha \neq 0$  の場合

$$Q(P\mathbf{y}) = (2 + 2\alpha)y_1^2 + (2 - \alpha)y_2^2 + (2 - \alpha)y_3^2.$$

**Case 2.**  $\alpha = 0$  の場合

$$Q(P\mathbf{y}) = 2y_1^2 + 2y_2^2 + 2y_3^2.$$

$$\boxed{3} \quad (1),(2) \text{ 授業中のノート参照} \quad (3) \quad y_1^2 + 3y_2^2$$